



昨年は梅雨の時期が2週間ほどと短かったですが、今年はしとしと降り続く梅雨らしい日が多い気がします。カラッと晴れて真夏日が続くのも熱中症の心配が出てきますが、気温・水温が上がらないのも水泳の学習ができなくて困ってしまいます。“いい加減”な天候になってほしいのですが、こればかりは思うようにいきません。

真夏日と言えば、一つ朗報があります。近年、猛暑日が連続する夏となり、教室にエアコンが設置されたものの、フルパワーで稼働させても室温が30℃を下回らないという状況でした。保護者の皆様にもご心配をおかけしていたことと思います。何とか改善してほしいと、倉敷市教育委員会をお願いしてきましたが、この度、3階の南側6教室にクーラーを増設してもらえることになりました。先日から電気工事等が始まっています。この効果がどのくらい期待できるかは試してみないとわかりませんが、昨年度までの環境よりはよくなりそうです。

先日の土曜参観日、ありがとうございました。子どもたちのすぐそばで、学習活動を見守ってもらうことができよかったです。どの学年の子どもたちも、生き生きと授業に参加できていたと思います。お子様の頑張っていた点をしっかりと褒める、ポジティブな行動支援をお願いします。

参観日後の教育講演会にも、100人を超える保護者の方に参加していただき、うれしかったです。西日本豪雨災害を体験しての高津先生のお話に、子どもたちも引き込まれていたように思います。挙手をして自分の考えを発表できる子どもたちの姿にも感心しました。私が一番心に残ったのは、近隣の人々と日ごろからの関わりが大切ということでした。いざというときに“共助”ができるためにも、近所にどんな人が住んでいるのか、普段から知っておく、そのためにも顔なじみになっていないといけませんね。また、後から「あの時に逃げていたら…」「あの時に迎えに行っていたら…」ということがないように、「いつ逃げる」「どこに逃げる」を正しく判断することが大切と言われたことに、西日本豪雨のあの日の自分の判断を反省しました。

私の家は、真備町の対岸の土手から100mばかりの所にあります。あの日、午後10時頃には避難指示が出ました。町内会の役員の方から、その旨を知らせる電話もありました。さて非難すべきかどうか…。刻々と水かさが増す高梁川の状況は定点カメラの映像からつかんでいました。「さすがに今回はやばい…」と感じられるような深刻な増水です。指定避難場所は1kmほど離れた小学校。でも、家とそんなに高さは変わりません。「家が浸水するならば、小学校でも同じだろう。床上浸水は覚悟しなければいけないが、2階までは達することはないはず。」そこで、家族全員を2階で就寝させ、避難は見送りました。自分だけは、念のため、ネットで定点カメラの映像の確認を続けていました。深夜2時か3時を回った時だったと思います。酒津の定点カメラが映し出す高梁川の水位がなぜだか急に下がっていききました。それに安心して、私も就寝したのですが、次の日にその原因を知ることになります。小田川の堤防の一部が決壊し、高梁川の水が小田川に逆流していったからだと思います。夜が明けて、真備町の岡田にある親戚の家が気になり、対岸の土手を車で走り、目にした光景は忘れられません。辺り一面泥水、1階部分が全く見えない家も少なくなかったのです。あの時、小田川の土手が決壊していなかったら、私の家側の土手を越えて水があふれていたら…。「まさか2階まで浸かることはない」自分の判断は、完全に間違っていました。

「よもやまさか…」と後悔しても時遅しです。高津先生は、言われました。「避難して何もなくても“空振り”ではありません。“素振り”の練習をしているのです。」“まさか”の時に正しい判断をして行動できる、子どもたちの“生きて働く力”となるように、ご家庭でも話題にしてくださいと思います。今回の講演会が“答えのない悲しみ”をなくしていくための第一歩になれば幸いです。

校長 高木 盛雄

☆「毎月第3日曜日は家庭の日です」～家族そろって何か取り組んでみませんか～

- ①家族そろって笑顔で話し合しましょう。
- ②家族みんなで、スポーツ・ゲーム等を楽しみましょう。
- ③家族そろって夕食を共にしましょう。
- ④家族みんなで読書に親しみましょう。
- ⑤家族みんなで読書に親しみましょう。
- ⑥家族全員が協力しあいましょう。
- ⑦家族そろって読書に親しみましょう。
- ⑧この日を契機に毎日「家庭の日」になるように努力しましょう。